

## 更新の必要はある？ ■ 四つの版が入手可能

ウィンドウズの最新バージョン「ウィンドウズ7(セブン)」が今月22日に発売されます。注目している人も多いでしょう。本欄でも3回連続で特集します。最初となる今回は、「7」の種類や更新方法を説明します。そもそも、いま使っているOSを「7」に更新する必要があるのかどうか——そこから話を始めましょう。

(ライター 斎藤幾郎)

### てくらの生活入門

結論から言います。現在、XPやビスタを使っていて不具合がなければ、そのまま使い続けて問題ありません。多くの場合、「7」への切り替えは次にパソコンを買い替えるときで間に合うでしょう。XP時代の古いパソコンを使っているなら、パソコン自体の買い替えを検討した方が現実的です。



ウィンドウズ7は、ビスタを基に使い勝手

やセキュリティを向上させたつ、ハードへの負担を軽くしており、ネットブックなどの低価格パソコンでも無理なく動きまわります。必要なパソコンの性能は、CPU1GHz以上、メモリ1GB以上、ハードディスク(HDD)容量16GB以上——で、ビスタとほぼ同じ。つまり

ビスタが動作しているパソコンなら、おおもね「7」も動くと考えてよいでしょう。

それでも切り替えを急ぐ必要がないというのは、「7」でなければ動かないアプリケーションソフトや周辺機器がまだないからです。とはいえ、いずれは切り替える必要に迫られるかもしれない。ちょうどパソコンの買い替え時期を迎えた人ものるでしょう。



ウィンドウズ7には6種類の「エディション(版)」があります(図上)。

エディション構成はビスタとほぼ同じです。違いは2点。ビスタの「ビジネス」にはホーム・プレミアムの一部の機能がありませんでしたが、「7」で同じ版に当たるプロフェッショナル

は、ホーム・プレミアムの全機能を含みます(図中)。また「7」のスターターは機能が大きく制限され、壁紙やウィンドーの色などのカスタマイズなどできません。

日本の一般ユーザーが入手できるのは4種類。標準的な「ホーム・プレミアム」、企業ネットワーク接続機能などを加えた「プロフェッショナル」、全機能搭載の「アルティメット」、ネットブックなど低価格パソコン用に機能を制限した「スターター」です。ウィンドウズ7の発売に合わせ、各メーカーから搭載パソコンが発売されますが、ネットブックを除き、基本はホーム・プレミアムです。

入ります。ホーム・プレミアムとプロフェッショナルは、数量限定で「発売記念優待パッケージ」も販売され、通常のアップグレード版よりお得です。



アップグレードの種類は、現在の設定やインストール済みソフトを引き継ぐ文字通りの「アップグレード(上書きインストール)」と、今の状態を全く引き継がない「新規インストール(カスタム)」の二つです。

スターター以外はパッケージも発売。同じ「7」内で上位の版に切り替える「ウィンドウズ・エニータイム・アップグレード(WAU)」というパッケージも登場します。ネットブックを買ってスターターが不満だったら、ホーム・プレミアムにすることもできるわけです。

XPから「7」へのアップグレードは新規のみ。ビスタからのアップグレードは、新旧の版の組み合わせ次第で上書きも選択可能です(図下)。「7」非対応のソフトなどは削除するようメッセージが表示されることもあります。上書きに失敗してうまく起動しない場合などに元の状態に戻せるよう、安全対策が強化されています。

ビスタやXPを搭載したパソコンを「7」に入れ替える場合、パソコン1台ごとにアップグレードパッケージを1本購

入ります。ホーム・プレミアムとプロフェッショナルは、数量限定で「発売記念優待パッケージ」も販売され、通常のアップグレード版よりお得です。アップグレードの種類は、現在の設定やインストール済みソフトを引き継ぐ文字通りの「アップグレード(上書きインストール)」と、今の状態を全く引き継がない「新規インストール(カスタム)」の二つです。XPから「7」へのアップグレードは新規のみ。ビスタからのアップグレードは、新旧の版の組み合わせ次第で上書きも選択可能です(図下)。「7」非対応のソフトなどは削除するようメッセージが表示されることもあります。上書きに失敗してうまく起動しない場合などに元の状態に戻せるよう、安全対策が強化されています。上書きインストールにはHDDに8GB程度の空き領域が必要です。「新規」でも同じ空きがあれば、元のファイルを残して「7」をインストールできます。元のファイルが残るとはいえ、事前に必ずデータをバックアップしておきましょう。

# ウィンドウズ7の種類(エディション)と価格

機能	エディション	価格			
		通常版	アップグレード版	数量限定版	エニータイム・アップグレード
全機能	<b>Ultimate</b> (アルティメット)	4万740円	2万8140円	なし	1万7640円 ※1 (ホーム・プレミアムから)
多機能	<b>Professional</b> (プロフェッショナル)	3万9640円	2万7090円	2万999円 (発売記念優待パッケージ)	1万1340円 ※2 (ホーム・プレミアムから)
標準	<b>Home Premium</b> (ホーム・プレミアム)	2万6040円	1万6590円	1万4699円 (発売記念優待パッケージ) 2万5199円 (アップグレード版 ファミリーパック=3台分)	9240円 ※3 (スターターから)
機能限定	<b>Starter</b> (スターター)	ネットブックなど低価格パソコン向けの機能限定版。 パッケージなし			(いずれも税込み参考価格)
特殊	<b>Enterprise</b> (エンタープライズ)	企業一括導入向け。パッケージなし。アルティメット相当			
	<b>Home Basic</b> (ホーム・ベーシック)	新興国市場向け。国内販売なし			



## 主要3エディションの違い

	ホーム・プレミアム	プロフェッショナル	アルティメット
標準機能	★	★	★
企業ネットワーク(ドメイン)参加		★	★
XPモード実行用データの無償ダウンロード		★	★
多言語対応(35カ国)			★
ビットロッカー(ドライブ暗号化)			★

## アップグレードの対応と方法

現在のウィンドウズ		アップグレード先のウィンドウズ7		
		ホーム・プレミアム	プロフェッショナル	アルティメット
XP	ホーム/プロフェッショナル	▲	▲	▲
ビスタ	ホーム・ベーシック	○	▲	○
	ホーム・プレミアム	○	▲	○
	ビジネス	▲	○	○
	アルティメット	▲	▲	○
7	スターター	WAU ※3	WAU	WAU
	ホーム・プレミアム		WAU ※2	WAU ※1
	プロフェッショナル			WAU
	アルティメット			

- アップグレード(上書きインストール)、新規インストール(カスタム)選択可能
- ▲ 新規インストール(カスタム)のみ可能
- WAU ウィンドウズ・エニータイム・アップグレード対象

## 力作ぞろいの新製品 ■「ネットノート」も登場

ウィンドウズ7の登場に合わせ、パソコンの購入を検討している人も少なくないはず。その需要を見込み、多くのメーカーが秋冬の新品を発売しました。今回は、「7」に合わせた新しいパソコンのトレンドを紹介します。

(ライター 西田宗千佳)

### てくらの生活 入門

ウィンドウズ7の新機能の一つに「マルチタッチ」があります。画面を手で触り、複数の指で操作する機能で、タッチパネ

ル液晶など特定のハードウェアと連携して動きます。「7」に標準搭載されたため、マルチタッチ機能を組み込んだ製品がいくつも登場しています。

 マルチタッチという  
と、iPhone (ア  
イフォン) のようなモバイル  
機器の印象が強いのですが、今  
回登場したパソコンでは、むし  
ろ20型以上の大型ディスプレイ  
を備えたモデルに注目したいと  
ころです。

メリットは、ネット閲覧や写  
真の整理、ゲームなどを、指を  
使って気軽にできる点。代表は  
富士通の「デスクパワー」  
で、文字入力やウェブの操作を

手で薬に行うために独自のソフ  
トが組み込まれ、画面を奥に30  
度傾けられるなど、使いやすく  
なっています。

ただしマルチタッチは、今後  
のパソコンの主流といえるほど  
成熟したものではありません。  
本格的な作業には結局マウスと  
キーボードが必要ですし、マル  
チタッチを生かしたソフトもま

だ少数。注目の機能ではありま  
すが、各社とも一部の高付加価  
値モデルで採用しているとい  
うレベルにとどまっています。

 多くの人が購入する  
「普及型パソコン」の  
分野で注目されるのは「CUL  
V」(消費者向け超低電圧版)

です。インテルが一般的なモバ  
イルパソコンに使うCPUを、  
より低価格なパソコン向けに量  
産した製品です。

昨年以降、5万円以下で買え  
る「ネットブック」が人気です  
が、低価格だけに処理速度もか  
なり低め。「7」対応機でも、  
価格を下げるためにOSが制約  
され、画面表示機能「エアロ」  
や壁紙変更、DVDビデオの再  
生などが使えない「スタータ  
ー」が採用されています。メー  
ンのパソコンとして使うには、  
こうした制約が気になります。

そこに登場したのがCULV  
を用いたパソコンです。ネット  
ブックと違い、搭載OSの制限  
はありません。DVDドライブ  
を搭載せず、バッテリーで6〜  
9時間動作することなどは15万  
〜25万円のモバイルノートと同  
じですが、価格は8万〜10万円  
とかなり安価。半面、重さは1  
・4〜1・8kg<sup>程度</sup>で、高価なモバ  
イルノートとは軽くはありま  
せん。

「ネットブックよりちょっと  
高いが、満足度の高いパソコ  
ン」として、今夏以降の需要  
も注目されるでしょう。CULV  
という名称は覚えにくいので、  
東芝は「ネットノート」と  
いう愛称で呼んでいます。ネッ  
トブックでは日本メーカーは海  
外メーカーより出遅れました

が、CULVでは、いち早くこ  
の商戦期に製品をそろえて来ま  
した。

他方、進化した技術を最大限  
に生かし、「高性能なモバイル  
ノート」を作るメーカーもあり  
ます。ソニーは重量745g<sup>程度</sup>で  
10時間動作する「バイオX」  
を、パナソニックは高性能CP  
U搭載と16時間のバッテリー駆  
動を実現した「レッツノート  
N」を製品化しています。こち  
らも注目しましょう。

 OSが変わると、ど  
うしても周辺機器やソ  
フトの互換性に問題が発生しま  
す。「7」の場合、ピスタで動  
作していたものはほとんどがそ  
のまま動作すると言われています。  
ですが、やはり確認は必要です。  
パソコンの購入前に、使ってい  
る周辺機器やソフトのメーカー  
が公開している互換性情報や、  
マイクロソフトの対応製品情報

検索サイト (<http://www.microsoft.com/japan/windows/windows-7/compatibility/>) などによって確認  
しましょう。分からないことも  
多いでしょうが、その場合はメ  
ーカーに問い合わせるのが近道  
です。

トレンド  
その1

マルチタッチ+大画面 タッチで簡単、手軽に操作

☒ メーカー ☒ 予想実売価格

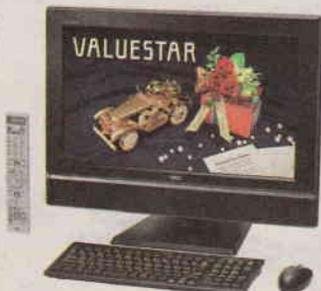
FMV デスクパワー F/E90D



☒ 富士通 ☒ 24万円

最大30度まで奥に傾く。オリジナルの手書き入力ソフト付き

バリュースターW VW870/VG



☒ NEC ☒ 23万円

ヤマハと共同開発のスピーカー内蔵。タッチパネル対応ゲーム付き

パイオV VPCL119FJ/S



☒ ソニー ☒ 24万円

ゲーム機などをつなげるHDMI外部入力装備。AV管理ソフト付属

トレンド  
その2

CULV (ネットノート)

ネットブックより快適、でも低価格

ダイナブック  
MX MX/33KWH



☒ 東芝 ☒ 8万円

ハードディスク250GB。バッテリー持続時間は約9.5時間

ラヴィ M LM330/VH6R

☒ NEC  
☒ 9万5000円

13.3型、キーピッチ19ミリと大きめ。ハードディスク320GB



ルークス C/E50

☒ 富士通  
☒ 8万5000円

最薄部26.4ミリの薄型デザインが特徴。ハードディスク320GB



トレンド  
その3

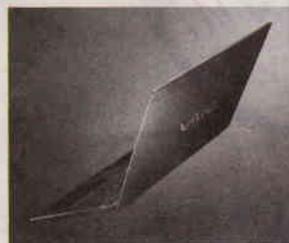
長時間モバイル

軽量ながら、ほぼ1日使えるバッテリー持続時間が魅力

パイオX VPCX118KJ/B

☒ ソニー  
☒ 11万円

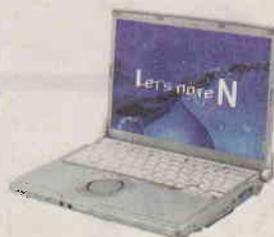
765グラムの軽さで10時間動作。別売バッテリーで最長20時間動作



レッツノート N CF-N8HYCADR

☒ パナソニック  
☒ 19万円

重量約1.27キロ。高性能CPUを搭載しつつ、16時間のバッテリー動作を実現



グラフィック・なかのりか

